

LHR学習指導案

広島県立瀬戸田高等学校

指導者 1組 越智 秀之

2組 及川 乃茂子

1 日 時 平成17年6月10日(金) 13:30~14:20

2 指導学年 2学年1組29名 (男子 18名 女子 11名)

2組29名 (男子 19名 女子 10名)

3 場 所 2学年各HR教室

4 単元名 「カッター訓練」

5 単元について

(1) 単元観

カッターとは、オールをもって漕ぐ小型艇の1種で、普通のローイング・ボートより大きく、人数も多く乗れ、十分な復元性と十分な浮力・強度を有し、主として船舶に搭載され避難、錨作業、物品の運搬等に用いられる艇のことをいう。しかし、現在では訓練用として多く使用されている。

オールを一部の生徒が力まかせに漕いでも、うまく進まない。一人一人の力が弱くても、全員のオールが揃っていれば、カッターは海面を滑るように突き進むという特徴がある。

したがって、この訓練により、協調のむずかしさと協力の大切さや友情の大切さを理解させることができる。また、海洋という特別な環境の中で行うため、気象や海象の変化に対応することにより、機敏な動作と判断力を養わせることもできる。

また、自然の美しさ、海の美しさに接しながら海事知識、技能を習得させることも可能である。

(2) 生徒観

今回のカッター訓練は、本校創設以来、初めての試みであり、生徒もカッターを漕ぐという体験は、ほとんどの者が行ったことはない。

対象生徒の約8割が本校のある生口島の生徒であり、残りの生徒も因島や三原沿岸地域といった海に面している環境に住んでいる。

また、生徒が自分の住んでいる環境やカッター訓練を行うことに対して、感じていることを調査する為に事前にアンケートを実施した。(下図参照)

その結果、ほとんどの者が幼少の頃から、海で泳いだ経験を持っているが、その反面、「海が好きですか」という質問に対しては、19人の生徒が「どちらでもない」と回答していることから考察すると、自らすすんで、積極的に海に泳ぎに行っているとは限らないと思われる。

また、ほとんどの生徒が、カッター訓練は初めての経験になり、カッター訓練そのものがどのようなものなのか、また、それをを行う理由の想像がつかないという状況にある。

それらのことを総合的に考察すると、自分の住んでいる環境に対して、積極的に自然とかかわったりした経験の少ない生徒が意外と多くいると考えられる。一方で、10数名ではあるが、地元の山に登ったり遠泳大会に参加したりして、環境を大いに活用して地元へ愛着を持って活動している生徒もいる。

本校は、2年前より全校集会を定例化した。さらに保健体育の授業において、集団行動を行うなど集団で行動する際に必要な態度を身に付けるように組織的に取り組みを行っているが、日常的に、生徒一人ひとりが、迅速かつ正確に行動を行っているとは言い難い。この体験活動を通して、さらに集団行動を行うための必要な資質・態度を身に付けることができるよう期待したい。

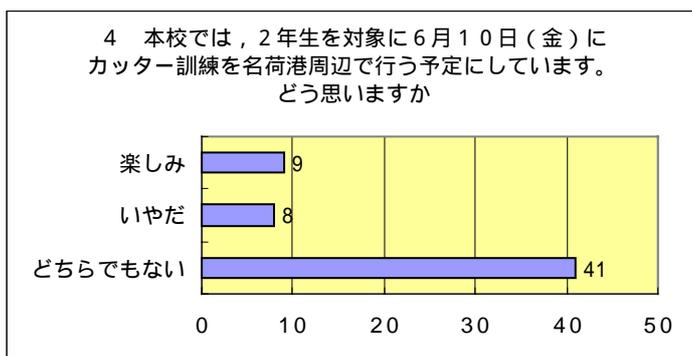
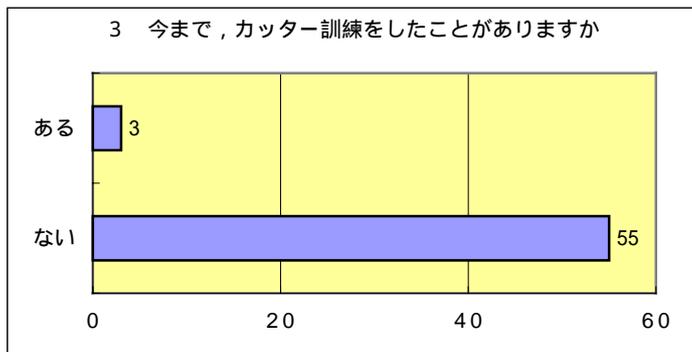
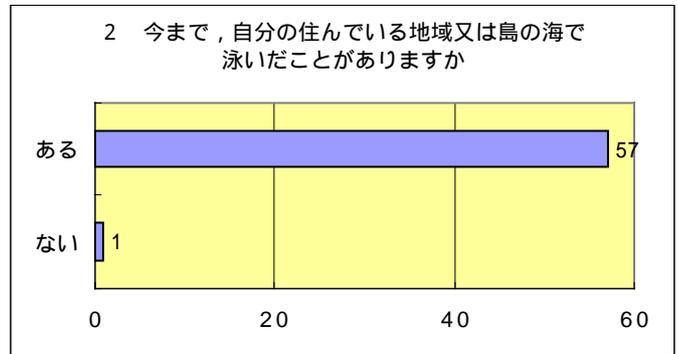
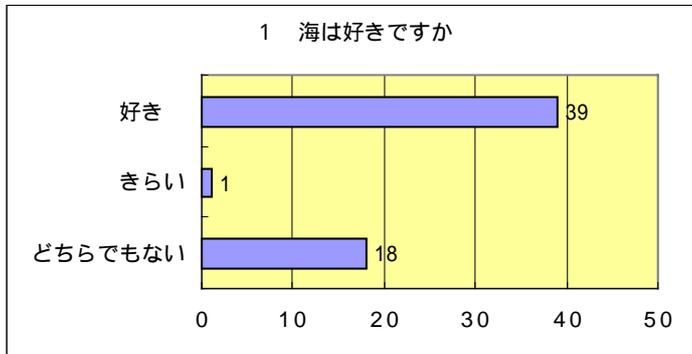
2年生58名は、男女共に、発問したら自分の言葉で返す生徒が多いが、中に、自信を持って自分の意見が言えない生徒もいる。しかし、そんな生徒も、周囲の友達が何を考えているのか、どんなことを言う

のか，ということに関心を持っている。自分の意見を発表するとともに，周囲の友達の意見に関心を持って聞くことができる学年である。

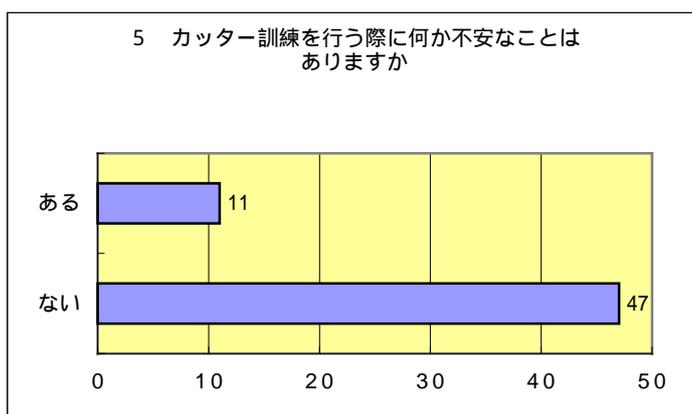
(カッター訓練に関する調査・アンケート)

対象 2年生生徒58名(男子37名，女子21名)

期日 平成17年5月25日(水)



理由
 (楽しみ)やったことがないから，やってみたい。
 興味がある。
 (いやだ)海が怖い。船に酔う。しんどそう。
 (どちらでもない)やってきたことがないので想像がつかない。



理由
 (ある)海が怖い。船に酔う。しんどそう。

(3) 指導観

このカッター訓練の主たる場面は、一つの艇を集団で一定方向に進めることである。したがって、指導に当たる者としては、日常より、生徒の性格や動向を的確に把握・分析するとともに、当日の行動を的確に指示し、教員・生徒が共通の意識のもとで迅速かつ正確に行動できるように、事前・当日・事後のサポートを含め、しっかり行っていくことが最も重要だと考えている。

事前調査・アンケートの結果からも分かるように、まずは海や船に対する恐怖感を持っている生徒に対して、それを取り除くことができるように指導の工夫が必要である。また、カッター訓練自体が想像できない生徒に対して、カッター訓練の意義や具体的内容の説明を充分に行い、意欲を引き出すことが出来るような指導を行うことも大切である。

また、外部講師と学校教員が連携して教育内容を創り上げていくことは、本校が推進している道徳教育やキャリア教育の一つの柱にもなることで、お互いを補完しあえる体験になるよう、外部講師との打ち合わせを可能な限り入念に行っておきたい。

LHRでは、生徒の感想や意見を引き出すことを重点におきたい。その際、発表に配慮を要する生徒もいるので、発問を工夫しながら、可能な限り、全員の思いを聞きたいと考えている。さらに、感想や反省だけで終わるのではなく、この経験を今後の自分にどのように生かしていくのか、ということにまで発展的に考えさせていきたい。

6 単元の目標

(1) オールを同時に扱うことにより、艇の正常な運航ができることを経験し、協調のむずかしさと協力の大切さを理解させる。
〔役割把握・認識能力〕〔コミュニケーション能力〕

(2) 自己の体力、気力を試し、それを知るによりこれからの生活に役立てる希望と自信を養わせる。
〔自他理解能力〕

(3) 気象、海象の変化に対して、対応できる機敏な動作と判断力を養わせる。
〔選択能力〕

(4) 海上で発生するあらゆる状態に対することにより、友情の美しさ、友の大切さを知らせる。

(5) 自然の美しさ、海の美しさに接しながら海事知識、技能を習得させる。
〔 〕内は、キャリア教育がめざす育成すべき能力

7 単元の評価規準

関心・意欲・態度	思考・判断	表現・技能	知識・理解
・常に仲間を意識しながら、励まし合ったり、他と協力して補助したり、教え合ったりしようとする。 ・自分と仲間の安全に気を配り、カッターの状態を確かめるとともに、自ら進んで器材を準備する。	・安全で正確な運航をするために、自分や仲間の動作又は環境を的確に捉え、課題を設定することができる。 ・体験活動を通して、協働・協調の意義を考えることができる。	・正確な運航ができるようにオールを安全で正確な動作で扱うことができる。 ・乗艇・降艇，出艇準備の際に安全で正確な動作で扱うことができる。	・カッター各部の主な名称を知っている。 ・カッターを運航する際に必要な号令を理解することができる。 ・海洋に対する知識を習得している。

8 指導及び評価の計画（全5時間）

時	学習内容（時数）	評 価					
		関	考	表	知	評価規準	評価方法
1	事前LHR（2時間） （カッター訓練の意義の説明 ・リハーサル）					・内容を把握し、安全で的確な動作をしている。	行動観察
2	カッター訓練（2時間）					・内容を把握し、安全で的確な動作をしている。	行動観察
3	事後LHR [本時]（1時間） （心の書きとめシートの記入）					・カッター訓練という体験活動を通して、級友との協調のむずかしさと協力の大切さを実感し、これからの自分の生活に生かすことができる。 ・自分だけでなく、周りの人の意見を聞き、協調の難しさと協力の大切さの理解を深めている。	行動観察 発表（心の書きとめシート記入）

9 本時の目標

- (1) カッター訓練を振り返るなかで、協調のむずかしさと協力の大切さを実感させ、今後の自己の在り方や生活に活用できる場面を考えさせる。
〔役割把握・認識能力〕〔コミュニケーション能力〕
- (2) 自分の思いや感想を周囲に分かりやすく的確に表現させるとともに、周囲の意見を参考にして、自分にとってのカッター訓練の「意義」を考えさせる。
〔コミュニケーション能力〕〔自他理解能力〕

10 本時の展開

- (1) 準備物
心の書きとめシート，補足プリント，(振り返りワークシート)
- (2) 学習の展開

過 程	学習活動	指導上の留意点及び*評価規準（評価方法）
導 入	号令 本時の説明	自治委員にしっかりと号令をかけさせ，全員で挨拶ができるように徹底する。

(5分)		この時間で何を考えて欲しいか、何をするのか等の目標を明示する。
展 開 (40分)	<p>カッター訓練をしてみたの感想を個人に発表させる。(5分)</p> <p>グループごとに訓練後の感想と反省を話し合わせる。(10分)</p> <p>グループごとに発表させる。(10分)</p> <p>著名人たちの格言を紹介し、自己の今後の在り方や生き方を考えさせる。(10分)</p> <p style="padding-left: 40px;">最も心に響いたもの 今、自分が克服すべき課題は何か？ それを克服するための力が現在の自分に備わっているか？を、ワークシートで考えさせる。</p> <p>心の書きとめシートの記入(5分)</p>	<p>事前指導におけるねらいに照らし合わせながら、感想を述べさせる。</p> <p>何人かに発表させる。 速やかに小集団を作らせる。 机間指導しながら、話し合いがスムーズに行われているか確認し、必要ならばアドバイスをする。 * 協調のむずかしさと協力の大切さを実感し、学校生活に活用できる場面を考えることができる。(発表、行動観察)</p> <p>板書を活用して、発表内容を記録する。</p> <p>補足プリント・ワークシート配布。</p> <p>* 著名人たちの格言や級友の意見を参考に、自分にとってのカッター訓練の意義を考えることができる。(補足プリント・ワークシート、行動観察)</p> <p>真剣に考えているか確認しながら、机間指導を行う。</p>
ま と め (5分)	<p>まとめ</p> <p>号令</p>	<p>全体を通して、または心の書きとめシートをチェックした後、担任による感想を述べる。</p> <p>自治委員にしっかりと号令をかけさせ、全員で挨拶ができるように徹底する。</p>